

セルフヘルプグループ活動とインターネットを利用した精神障害者の日常生活世界 —日常生活世界とセルフヘルプ活動の融合—

氏名 中田 喜一 (009127)

キーワード：セルフヘルプグループ 精神障害者 インターネット

1. 研究目的

本発表では、インターネットによりせりだしてきつつある自助空間の分析を行う。近年モバイルメディアやインターネットを利用の敷居が低くなりほとんどの人がネット空間を利用しつつある。その中で精神障害者のセルフヘルプグループもまたネット化しつつありその解明が求められている。茨木(2008)は、ステップファミリーのサポート組織であるステップファミリー・アソシエーション・オブ・ジャパンの事例から、インターネットセルフヘルプ活動では以下、4点をあげている。1、少数派の組織化の機会と拡大。2、専門家によるサポートを超えた広範囲な「当事者ネットワーク」の可能性。3、実際の社会での実践活動への橋渡しの機能。4、物理的障壁を越える機能。という指摘をしている。

茨木の議論を踏襲しつつもAさんの主催するインターネット自助活動を通して一体、既存の自助グループと違いネット自助空間とはどのような特性があるのかを再検討する形で特性を付け加える。

2. 研究の視点および方法

前述の茨木(2008)はもっぱら情報的な支援に力点を置いているが、精神障害者のインターネット自助活動の場合は、後述するように情報的支援のみならず茨木が指摘している以上にインターネット自助活動は彼らの生活世界に根ざしているものだからである。

研究方法においては参加型アクションリサーチとする。つまり、筆者自身も参加しつつAさんの活動を支援しよりコミュニティにとって望ましいあり方を模索する。分析対象者はAさんである。Aさんは現在、通所・入所施設利用をされておらず居宅サービスも一切利用されていない。毎日、ネット自助空間を活用しつつ様々な軽作業をされておられる。Aさんは、自分が主催したインターネットの音声ツールを利用してネットで仲間を集めておりメンバーはいつも3人～6人程度である。Aさんと共にインターネットを通じて朝、昼、晩問わず話す機会や助け合いや見守り等々を行っている。

3. 倫理的配慮

今回は事例が少ないので対象者を特定しにくいような匿名化をした。本調査はインターネットを利用した居場所をインターネットを利用して調査するため調査対象者の権利のためにどのサイトが利用されているか、どのようなツールなのか、グループの名称も同時に

匿名化する。日本社会福祉学会が定める「研究倫理指針」を遵守し調査を行った。

4. 研究結果

ネットの精神障害者における自助活動の現在形として非意図的なグループ形成及びモバイルメディアによる日常生活世界への浸透がなされているということが判明した。特に本論ではAさんの言説のみの分析であったが、Aさんのみならず筆者が関わった精神障害者のうち複数の人々がインターネット音声通話を利用しつつ家事一般（散歩、掃除、洗濯、入浴、買い物、職業訓練）などマルチタスク状態で様々なことがなされている。Face to Faceの関係性では少なくとも24時間の協同関係の構築は不可能であり近年のテクノロジーと彼らの「誰かが一緒に居てほしい」といったニーズの一致がこのようなメディア利用のされ方とコミュニティの構築を可能にしたと言えるだろう。また本論が対象とするグループは前述したように、精神障害者一般あるいは生きづらさを抱えた者であり既存の自助グループと違い必ずしも障害者である必要さえない。Aさんの自助活動のメンバーのうちの1割～2割程度は子育て中の専業主婦などもいた。

5. 考察

ニルスクリスティもいうように、援助が必要な人々は、自分達がまばらにばらまかれた普通の社会によって、ある程度までは干渉される事はない。その代わりに、彼らは普通ではない社会即ち、金銭で雇われたヘルパーの社会にどっぷりと浸る事になる。彼等は容易に友人を作ることが出来ず、また彼等と同等の者は殆どおらず、いるとしてもお互いに遠くに離れて見つけにくいのために、制約を受けた社会的重要性を有することになる。雇われているヘルパーは、悲惨さと孤独に代わる主なものである。しかしながら、ネット自助グループ活動はそこに新たな可能性を見る。それゆえ、インターネット自助活動は、茨木がいうような「当事者ネットワーク」を飛び出ていくのである。それは既存の自助活動と違い、様々な精神障害者を包摂しつつ多様なメンバーで構成された多文化主義的な自助空間を構成しているのである。

【参考文献】

Christie, Nils 2004 *En passende mengde kriminalitet—A suitable amount of Crime*, Universitetsforlaget, Oslo =2006 平松毅・寺澤比奈子訳、『人が人を裁くとき——裁判員のための修復的司法入門』,有信堂

茨木 尚子 2008 「少数派の組織化とインターネット——オンライン・セルフヘルプグループの可能性と課題」『オンライン化する日常生活——サポートはどう変わるのか』 文化書房博文社 13-45

日本社会福祉学会 2016 『日本社会福祉学会第64回秋季大会研究倫理指針』（=
<http://www.jssw.jp/conf/64/ethics.html>）